佐助ヶ谷 源十郎の大根の伝説

鎌倉・佐助ヶ谷には、漁師の源十郎さんが助けた狐からのお告げで大根を作るようになり、鎌倉で流行った疫病にかかった人々がその大根を食べることで治ったという伝説が残っています。佐助ヶ谷にある佐助稲荷神社には、小さな白い陶器の狐がたくさん奉納されています。出世運、仕事運、縁結びにご利益があるといわれ、参拝に訪れる人が絶えません。佐助稲荷神社の近くには全国でも珍しい大根料理専門店があります。

版画／友永詔三

佐助ヶ谷 源十郎の大根の伝説

むかし、鎌倉に源十郎という魚売りがおりました。

ある日、源十郎がいつものように荷をかついで由比ヶ浜を歩いていると、向こうから犬に追われた狐がいちもくさんにかけてきました。浜辺で逃げ場もなく困った狐は、源十郎の荷の中へ飛び込みました。追いかけてきた犬はものすごい剣幕で吠え立て、源十郎の周りをぐるぐると回りました。源十郎は狐が可愛そうになって、「シッ、シッ」と天秤棒で犬を追っ払ってやりました。助かった狐はぴょこんとお辞儀をして、山へ帰っていきました。

その晩のこと。源十郎は不思議な夢を見ました。昼間助けてやった狐が夢枕に立って話しかけるのです。「あなたのおかげで助かりました。お礼にいいことを教えてあげましょう。魚売りをやめて、佐助ヶ谷で大根を作りなさい。そうすれば、きっとお金持ちになりますよ」。源十郎はさっそく佐助ヶ谷に畑を借りて、大根を作り始めました。明けても暮れても大根づくりに励み、そして冬になりました。その冬は特別寒く、村中に悪い病が流行りました。この病気にかかると、たいていの人が助かりません。

そんなある日、村人のひとりが夢の中で神様のお告げを聞きました。「佐助ヶ谷で源十郎が作っている大根を食べれば、たちどころに流行り病は治る」。お告げを聞いた者は、村中にこの夢のお告げのことを知らせました。

佐助稲荷神社

源頼朝の吉夢に現れた稲荷の神霊を祀る神社。頼朝が畠山重忠に命じ、佐助山隠れ里の霊地を選び建立させたという。祭神は、宇迦御魂命、大巳貴命、佐田彦命、大宮女命、事代主命。創建年は不明。頼朝に挙兵を勧めて快挙に導いた神霊を祀っていることから、出世稲荷といわれる。

拝殿

伊豆の蛭ガ小島（ひるがこじま）に流されていた源頼朝（みなもとのよりとも）が病に伏していた時、「かくれ里の稲荷」と名乗る翁が夢枕に立ち、平家討伐の挙兵をうながしました。後に幕府を開いた頼朝は、かくれ里に祠（ほこら）を探しあて、稲荷神社を建てたと伝えられます。幼少のころ佐殿（すけどの）といわれていた頼朝を助けたので「佐助」の名を付けたといわれています。参道登り口に縁結びの十一面観音が祀られています。　鎌倉市
―説明板より―

鳥居

本殿

縁結び十一面観音菩薩

徳川時代、足柄郡の尼寺から縁あって当地に安置された木像十一面観音は、良縁にうすく、諦めて仏門に入られた美しい姫君、赤松幸運がこの世の若い男女に良縁あらんことをと祈りつつ彫られたと伝えられています。―説明板より―

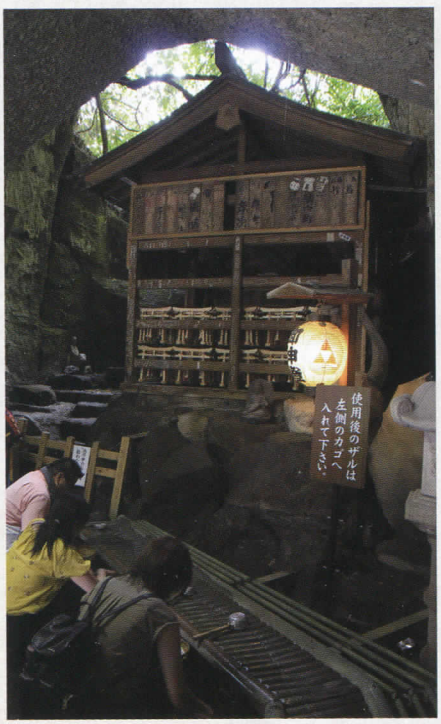
霊狐泉

佐助の稲荷山は往古より麓の田畑を潤す水源の地なり。生命の基のこの湧水を人々霊狐の神水と称え家々の神棚に供えて稲荷のご神徳を戴くなり。今に至るも絶えず湧き出づる霊狐の泉なり。―説明板より―

源十郎の作った大根を買って食べてみると、不思議なことにたちまち病が治るのです。「私にも大根をください」「こちらにも」と後から後から源十郎の畑へ大根を買いに来る人が押しかけ、小さな畑の大根は見る間に少なくなっていきました。評判の大根は、残り少なくなるにつれ値段はどんどん高くなるばかり。それでも、人々は高い大根を買っていきました。

源十郎はたちまち大金持ちになり、自分のしたい放題にお金を使い始めました。御殿のような家を造ったり、たくさん召使を雇ったり。ついには、お金にものいわせて勝手なことをしでかすようになりました。そうした源十郎の振る舞いは、いつしか殿様の耳に入りました。殿様は身分もわきまえぬものと大変怒って、源十郎の財産を取りあげ、鎌倉から追い出してしまいました。

源十郎夫婦は、しかたなく旅に出ました。わずかなお金を持って旅を続けているうちに、筑紫（福岡県）のある村にたどり着き、そこから船に乗り込みました。穏やかだった海は沖へ出るとにわかに荒れだし、船をひっくり返すほどになりました。大きな波がドシッドシッと当たって、船は今にもばらばらになりそうです。船が大きく傾くたびに乗っている人々は、「もうだめだ」「船が沈む」と叫びました。そのとき、船頭が「海が荒れるのは竜王様が怒っているからだ。みんなが持っている宝物を海に投げ込んで竜王様にさし上げれば、海は穏やかになる。皆の衆、もし命が惜しかったら持っている金銀を海に投げ込んでくれ！」と叫びました。源十郎も命惜しさに、残り少なく

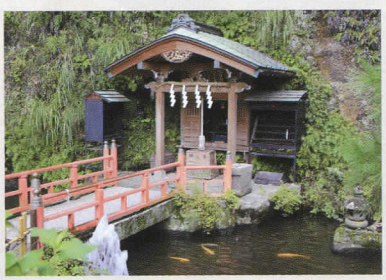


奥宮

ザルにお金を入れ、洞窟内に湧く水を柄杓でかけて清める。

銭洗弁財天宇賀福神社

巳の年の文治元年（一一八五）、巳の月、巳の日、源頼朝に宇賀福神の夢のお告げがありました。「西北の谷に湧き出す霊水で神仏を供養せよ。天下は泰平になるであろう」。お告げの通りにこの地に湧き水があったので、さっそく宇賀福神を祀り、その水で神仏の供養を行ったことが、創建の由来だといわれています。この湧き水でお金を洗って使うと、何倍にもなって返ってくると信じられています。鎌倉五名水の一つです。　鎌倉市　―説明板より―



下之水神宮

上之水神宮

七福神社

なったお金を海に投げ込みました。すると、どうでしょう。荒れ狂っていた海は、たちまちもとのような静かな海になったのです。

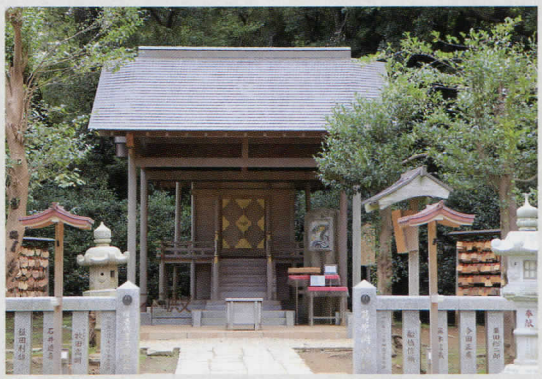
源十郎夫婦は、無事に博多に着くことができました。博多に着いてほっとひと安心すると、その日は大みそか。源十郎の妻は「明日は元旦です。今年もいつものように腹の太い大きな魚を買ってお祝いしましょうよ」と、源十郎に向かって言いました。持っていたわずかなお金をほとんど海に投げ込んでしまったので、魚を買えばすっからかんです。「お正月を迎えるんですもの、魚がなくちゃ」と、妻はしつこくせがみます。源十郎は「よし、それじゃあ」と、なけなしのお金をはたいて大きな魚を買いました。まな板にのせて魚をさくと、「あっ」と二人は顔を見合わせました。ピカピカ、ピカピカ。魚の太い腹の中に、さきほど海に投げ込んだお金があるではありませんか。源十郎は「不思議なことだ。これはきっと神様のなされたこと、ありがたいことだ」と感謝しました。このお金をもとに源十郎は再び商いを始めました。

商売が当たってお金がどんどん集まり、また大金持ちになっていました。このとき、名前を源十郎から弥十郎と改め、「大金持ちの弥十郎」と呼ばれるように。しかし、今度は大金持ちになってもおごらず、貧しい人にほどこしをするなどのよいことをしました。この噂が鎌倉にも聞こえ、源十郎を追い出した殿様に代わった、次の殿様から「鎌倉に帰ってきてよい」とのお許しをもらい、鎌倉へ戻り幸せに暮らしたということです。

『読みがたり　神奈川のむかし話』（東京むかし話の会編）より　＊一部加筆

葛原岡神社

日野俊基を祀る神社。鎌倉時代末期に後醍醐天皇の忠臣だった日野俊基は、鎌倉幕府倒幕計画に尽力したことで元弘2年（1332年）にこの地で処刑された。明治天皇は日野俊基の活躍を明治維新の先駆けとして従三位を贈り、明治20年（1887年）に葛原岡神社を創建した。



魔去ル石

魔去る石に傍らにある盃を投げつけて割ると、魔が去り、魔去るが転じて"勝る"、幸せを勝ち取れるという。

昇運の神龍

縁結び石

社務所で頂く赤い糸を通した五円玉を男石と女石の二つの石を繋ぐ縄に結ぶと、良縁の利益があるという。

俊基卿終焉之地

国指定史跡
日野俊基卿墓

源頼朝像

大根料理専門店「福来鳥（ふくどり）」

「源十郎の大根の伝説がある、ここ佐助ヶ谷に大根料理の店を構えて20年になります。自家製野菜や有機野菜、旬の食材を使った体に優しいお料理をお出ししています」（オーナーのさとうエダさん）

☎0467−22−1377

パトス

vol. 113
November 2018